

課題番号 : 29指2002  
研究課題名 : 国府台地区における臨床研究者育成と臨床研究支援に関する研究  
主任研究者名 : 考藤達哉  
分担研究者名 :

キーワード : 臨床研究、介入、侵襲、英語論文

研究成果 : 本研究は、国立国際医療研究センター国府台地区（国府台病院、肝炎免疫研究センター）における臨床研究（特に介入・侵襲を伴うもの）を活性化し、英語論文が多数執筆されるような支援を検討し実施することを目的とする。研究費の獲得がなされていない介入・侵襲研究を1つでも多く、様々な面で支援し、英文論文執筆にまで至れるような体制や仕組みを構築することが期待される。

平成29年度の実績は、以下の通りである。

### 臨床研究支援実績

#### （児童精神科）

- 17<sup>th</sup> International Congress of ESCAP 2017 Geneva 旅費(2017.7.9-11)、参加費 ポスター印刷代 牛島洋景 岩垂喜貴 川原一洋 (約117万円)
- The 9<sup>th</sup> Congress of The Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (ASCAPAP) 旅費(2017.8.24-27)、参加費、ポスター印刷代 宇佐美政英 (約30万円)
- 第58回日本児童青年精神医学会総会 旅費(2017.10.5-7)、参加費 岩垂喜貴 牛島洋景 宇佐美政英 川原一洋 二宮宗三 (約30万円)

#### （心療内科）

国府台病院心療内科所属の心理療法士 A は、ドイツ国立 Tübingen 大学心理学部博士課程に在学中である。診療科長 B の指導の下、摂食障害と内受容感覚に関する質問紙調査をドイツ国立 Tübingen 大学心理学部と共同研究（内受容感覚の文化差に関する研究）を実施している。すでに数回、渡独し、論文作成の指導や最新の研究について情報交換をしている。2018年2月にデータの解析やその意義について、論文投稿前の、最終的な日独の違いに関する考察を共同で行う。また、同医学部心療内科、オランダ国立摂食障害センターと共同して日本とヨーロッパの摂食障害患者の内受容感覚に関する傾向を考察し、次年度以降の新たな国際的な共同研究案についても検討する予定である。

経費(2名分)約50万円（交通費：約38万円、宿泊費：約12万円）

#### （総合内科、消化器内科、精神科、ソーシャルワーク室）

臨床研究入門講座ワークショップに参加(計6人)(参加費1万円/人:計6万円)

#### （心理指導室）

国内学会参加(計2人)口演:日本精神分析学会(名古屋)、日本児童青年精神医学会(奈良)

#### （麻酔科）

研究用試薬(7万円)

#### （外科）

症例報告作成用(免疫染色試薬)

国内、海外の学会での発表者に対する交通費、宿泊費、学会参加費の支援を積極的に行い、その結果が論文作成に繋がっている。2018年6月時点では介入を伴う臨床研究の申請はないが、積極的に申請を促し、国府台地区の臨床研究の更なる活性化に繋がりたい。

Subject No. : 29-shi-2002

Title : Establishment of supportive and educational system for physician scientists and clinical research in Kohnodai

Researchers : Tatsuya Kanto

Key word : physician scientist, clinical research, intervention, scientific papers

Abstract :

We aimed to establish the supportive system for clinicians to perform clinical research, hopefully with intervention, in Kohnodai Hospital and Research Center for Hepatitis and Immunology.

Based on the funding from NCGM, we have supported clinicians and researchers financially and technically as follows in FY2017.

- Participation fee for clinical research workshop: 60,000 yen for 6 persons
- Registration fee for presentation at Academic Meeting overseas: 1,470,000 yen for 4 persons
- Registration fee for presentation at Academic Meeting domestic: 300,000 yen for 7 persons
- Technical support for basic research: 181000 for 1 person
- Travel fee for collaboration with scientists overseas: 500,000 yen for 2 persons
- Editing English of scientific paper: 110000 for 1 person
- Submission fee for scientific paper: 90000 for 1 person

In FY2018, we aim to encourage doctors and medical staffs continuously for applying support from this funding project and intend to increase publications of clinical research from Kohnodai.

# H29国府台若手研究支援 運用方針（抄）

## 1. 若手研究支援とは：

- ① 臨床研究、特に侵襲や介入を伴う研究の実施および英語論文文化を目標とするが、その基盤となる知識、スキルや経験を身につけるために、観察研究や国際学会の発表も支援の対象とする
- ② 支援に係る費用は、国際医療研究開発費「重点研究 29 指 2002」から拠出する

## 2. 若手研究支援の方針

- ① 国府台若手研究支援事務局（以下、支援事務局）は支援申請課題について、研究内容、支援申請内容、申請者のポジション、課題の内容、準備状況、所属部門、所属研究グループが受けた支援回数、全体予算などを総合的に勘案して、採否を決定する
- ② 研究支援が特定の診療科・部門や研究グループに偏らない様に留意する

## 3. 国府台若手研究支援事務局

支援事務局委員は研究代表者、研究協力者、国府台病院職員（副院長、内科系、精神科系、外科系、看護部等）から構成され、協議によって研究支援の可否を決定する。支援事務局委員は別途定める。

## 4. 支援対象：

- ① 国府台病院および肝炎・免疫センターの医師（研修医、レジデント、フェローを含む）、常勤職員（看護師、技師、薬剤師、作業療法士、理学療法士、言語療法士、栄養士、医療工学士等）、研究員で、研究に関する利用可能な研究費をもたないもの
- ② 国府台若手支援事務局が必要と認めたもの

## 5. 支援内容：

### ①英語論文作成：

- i. 英文校正（日本語原稿からの英訳は対象としない、和文誌の英語抄録は対象としない）
- ii. 投稿料
- iii. Online 掲載料（オープン・アクセスの費用は支援対象としない）

- ・ 国府台病院または肝炎免疫センターの所属での筆頭著者または **corresponding author** としての論文を対象とする
- ・ Pubmed に掲載され、Beall's list に載っていない、良質な journal を対象とする
- ・ また臨床研究（介入または観察）に加え、症例報告も対象とする
- ・ 論文の謝辞に、次の文章を記載する
- ・ **This work was supported in part by Grants-in-Aid for Research from the National Center for Global Health and Medicine (29-shi-2002).**

### ②学会参加

- i. 英文抄録やポスター・スライドの校正（国内学会の英文抄録やポスターの印刷代は対象としない）
- ii. 国際学会での発表
- iii. 国内学会での発表

- ・ 筆頭演者としての発表を対象とする（学会参加費、宿泊費、旅費等、最大 40 万円まで）
- ・ 臨床研究（介入または観察）、症例報告、基礎研究等を対象とする
- ・ 診療科関連専門学会への参加で、診療科による発表者参加費用が拠出可能な場合（旅費等）、支援の対象としない。
- ・ 国立病院総合医学会等、国府台病院からの参加費用支援の対象となっているものは、本支援の対象としない。
- ・ 参加支援が重複しないように申請者自ら留意するとともに、支援事務局でも確認し、支援の可否は最終的に支援事務局が決定する
- ・ 発表した研究内容は、最終的に英語論文完成を必須とする

### ③研究支援

- i. 研究に必要な臨床検査の外部委託費
- ii. 研究のための試薬
- iii. 他施設における倫理委員会審査費用
- iv. JCRAC の経費

- ・ 倫理審査委員会の承認を得ている研究を前提とする

## H29年度支援実績

臨床研究セミナー参加：6人  
学会発表：海外4人、国内7人  
研究実行支援：3人  
共同研究支援：2人  
論文英文校正：1人  
論文投稿料：1人

# H29国府台若手研究支援 運用方針（抄）

## ④セミナー受講及び開催

- i. 統計学講習会（SPSS や JMP など）
- ii. 臨床研究講習会（臨床研究入門講座ワークショップなど）
- iii. 英語論文作成レクチャー
- iv. 上記i-iv に関して講師招聘関連費用（国府台地区で開催の場合）
- v. 企業が開催する先端技術（研究等）に関する講習会

- ・ 臨床技術講習会（超音波検査、内視鏡検査、臨床カンファレンス等）への参加は、本支援の対象としない

## ⑤その他

- ①～④以外の支援希望があれば、その内容を支援事務局が検討し、採否を決定する

## 6. 支援申請と経費の清算の手順

- ① 支援申請書の提出：若手研究支援申請書（別紙）を必要書類（下記）とともに支援事務局に提出する。  
事務担当：服部真一 管理専門職 ([us01sh@hospk.ncgm.go.jp](mailto:us01sh@hospk.ncgm.go.jp))

### 必要書類

- 研究倫理審査承認書（コピー）
- 学会参加旅費申請の場合：筆頭演者であることを証明する採択通知、プログラムのコピー

- ② 支援事務局は研究内容、支援希望内容について検討し、支援の可否を決定する。

**評価委員（別紙）**にメールで回覧し、委員は事務局代表へ意見を提出する。

代表：考藤達哉 ([kantot@hospk.ncgm.go.jp](mailto:kantot@hospk.ncgm.go.jp))

- 必要に応じて、申請課題に関する獲得研究助成の有無を研究業務係に確認する。
- 採択は、評価委員全員の賛成をもって決定する。
- 不採択と評価する委員は、その理由を他の評価委員に開示し、評価委員で検討し採否を決定する。
- 最終的な採否は、事務局代表により決定する。

## 平成29年度国府台若手支援評価委員

名 前	職 名
考 藤 達 哉	肝炎・免疫研究センター長
青 柳 信 嘉	副院長
柳 内 秀 勝	内科系統括診療部門長
早 川 達 郎	精神系統括診療部門長
東 俊 晴	手術関連診療部門長
高 木 智	免疫制御研究部長
酒 匂 赤 人	総合内科診療科長
宇佐美 政 英	児童精神科診療科長
水 野 宏 一	薬剤部長
菊 池 邦 子	看護部長
平 田 真 教	事務部長
藤 平 達 朗	管理課長
服 部 真 一	管理専門職（事務担当）

## 研究発表及び特許取得報告について

課題番号：29指2002

研究課題名：国府台地区における臨床研究者育成と臨床研究支援に関する研究

主任研究者名：考藤達哉

### 論文発表

論文タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
内受容感覚の概要と研究	庄子雅保	身の医療	第3号 13-17	2017

### 学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
The prevalence and the associated factor of risk of suicide among adolescents after 5 years of Tsunami disaster in Japan	Hirokazu KAWAHARA et al.	7th International Congress of The European Society for Child and Adolescent Psychiatry	ジュネーブ	2017年7月
Process of psychotherapy treating autism spectrum. - Transition of self-image and psychotic crisis	Hirokage USHIJIMA et al.	7th International Congress of The European Society for Child and Adolescent Psychiatry	ジュネーブ	2017年7月
Hospitalization treatment for developmental disorders	Yoshitaka IWADARE et al.	7th International Congress of The European Society for Child and Adolescent Psychiatry	ジュネーブ	2017年7月
Traumatic symptoms of Survived Children After 2011 Great East Japan Earthquake.	Masahide USAMI et al.	The 8th congress of Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions	インドネシア	2017年8月
虐待を背景にした衝動性の高い子どもの入院治療	二宮宗三	第58回日本児童青年精神医学会	奈良	2017年10月
東日本大震災被災地(石巻市)と非被災地(市川市)の児童生徒のトラウマ反応に関する調査	岩垂喜貴	第58回日本児童青年精神医学会	奈良	2017年10月
東日本大震災後のA市におけるこどものこころ実態調査	牛島洋景	第58回日本児童青年精神医学会	奈良	2017年10月
ADHD 1	牛島洋景	第58回日本児童青年精神医学会	奈良	2017年10月
効果を実証された子どものトラウマ治療～医療機関におけるTF-CBTの展開～	牛島洋景	第58回日本児童青年精神医学会	奈良	2017年10月

研究発表及び特許取得報告について

深刻な暴力行為がみられたADHD男児の一例～治療を中断させる要因としての子どもの育ちについて～	川原一洋	第58回日本児童青年精神医学会	奈良	2017年10月
子どもの統合失調症の薬物療法	宇佐美政英	第58回日本児童青年精神医学会	奈良	2017年10月
児童思春期の薬物療法	宇佐美政英	第58回日本児童青年精神医学会	奈良	2017年10月
ADHD 2	宇佐美政英	第58回日本児童青年精神医学会	奈良	2017年10月
本音が言えない女性との面接	森 一也	日本精神分析学会 第63回大会	名古屋	2017年11月
重症自殺企図後に自閉スペクトラム症と診断された1例	吉村裕太	第35回日本青年期精神療法学会	京都	2017年12月

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日
該当なし				

特許取得状況について ※出願申請中のものは( )記載のこと。

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国
該当なし				

※該当がない項目の欄には「該当なし」と記載のこと。  
 ※主任研究者が班全員分の内容を記載のこと。